

ごみかんのお仕事

修学旅行でごみ問題ガイドへ!



1.2号車は 品川清掃工場 へ...

1号車は40名の生徒と2名の先生、担当の田浪を乗せて、集合場所の上野を出発し、23区で3番目に新しい新鋭工場である品川清掃工場へ向かいました。

まずは、今しがた新幹線の中で彼らが食べた弁当の話題から、その容器がどのように処理されるかという話をする。「弁当容器は上野駅の地下で処理されるだよ」と。人は生まれてすぐにごみを出し、死んだ後もごみになるんだね...とそんな話をしました。

「ごみ処置で一番お金がかかるのは何だろう?」と問いかけると、生徒からは答えが出てこなくて、先生が「分別費用!」と。うーん残念、収集費用ですね。

生徒たちはリサイクルの意識は高いものの、発生抑制の意識が薄いようで、とにかく「ごみを出さない」工夫をしよう、と話しました。

2号車には小野寺が乗り、江戸では、糞尿を始め、紙くず、鉄くず、木片など、生活から排出される物は再利用しつくされ、理想的

3.4.5号車は 新江東清掃工場 へ...

巨大な新江東清掃工場へ行った井上です。

この工場はごみの埋立処分場の代名詞のようになっている夢の島に建っていることや、処理能力が日量1800トと、日本で一番大きなごみ焼却工場であることなど、ネタが多いので、生徒たちに「へ〜!」と言わせられるかな、と少し期待を込めてバスに乗り込みました。

きれいで立派な清掃工場を見学して、ごみ減量の必要性をあまり感じなくなっているのは困るので、話は最終処分場のことを中心に。

レインボーブリッジを渡り、フジテレビの奇抜な建物が見えてきたあたりで「この近未来的な景色の向こうには、東京23区最後の最終処分場【中央防波堤埋立処分場】が広がっているんですよー!」と懸命に話したけれど...生徒たちは外の景色に目を奪われて、ちゃんと聞いてくれていたかな〜。初めての体験で、生徒たちより私の方が勉強になりました、はい... (汗)



朝日新聞 2010.4.14



**東京のごみ事情を
秋田の中学生学ぶ**
国分寺のNPO案内
秋田県大仙市立大曲中の3年生290人が13日、修学旅行で訪れた都内で、ごみ問題を学んだ。移動中のバスの中でNPO法人「ごみ・環境ビジョン21」（事務局、市、田浪政博理事）たちから都内のごみ状態を聞き、ごみの中設を見学した。写真
同校は環境、エネルギーに力を入れており、行を利用して東京のごみ学ぼうと、初めて企画した。この日午後上野駅にいた生徒たちは、クラ



6.7.8号車は
有明清掃工場へ...

8号車に乗った堀川です。
お天気に恵まれた当日、上野駅で待っていると、やってきました！大曲中学校御一行！！
8号車の面々はちょっとはにかんでおとなしい女子とワイワイガヤガヤと騒がしい男子、そして本年4月に大曲中学校に赴任されたばかりという秋田弁バッチリの男性先生です。
バスが高速道路に乗ってから、いざ、説明！
用意した東京の地図を配布し、まずは、東京都と秋田市の人口とごみの排出量のお話。そして、東京の清掃工場、最終処分場の話へ。
バス後方に陣取っているワイワイ男子も前方に静かに座っている女子もそれなりに、フムフムという目をして話を聞いてくれました。
ホッ C=(◇^);
高速道路を下りてからは「環境クイズ」！正解者のみ次のクイズに進むという方式で、最後まで残った全問正解者は7～8名でした。答え合わせの時の積極的な発言にガイド役の遣り甲斐を十分に感じられました。
後日聞いた話では、大曲中学校では、ごみかんが昨年春に制作した『ごみ問題を子どもに教えるためのガイド * 中学校用』を各クラスでお買い

とに8台のバスに分乗。理事たちも1人ずつ乗り込み、見学の品川、有明、新江東の清掃工場に分かれて向かった。
清掃工場についていた生徒たちは「秋田の施設より大きい」と驚きながら職員の説明を聞いて熱

東京に着いたばかりでハイテンションの生徒たちと、大柄で色白の秋田美人の先生と共に、6号車で有明清掃工場へ行った江川です。
さっそく用意した地図を配り、東京のごみは海や山に埋立てているけれども、次の埋め立て処分場はもうないので、焼却灰も再利用するようになってきたことなどを解説し、「ごみは元から減らすことが大事」とレクチャー。
買物でマイバッグを使ったことがあるのは5、6名。「お隣の青森では、レジ袋は有料になっています」というと、「へー！」という反応でした。
有明清掃工場は15年前にできた工場で、特徴は管路を使ってごみが集まってくる。お台場一帯の地下に張り巡らせた共同溝の中に、ごみ専用の大きなパイプが走っていて、掃除機のようにごみを吸い込んで運びます。
生徒たちは、管路収集のパイプや深さ30mもある巨大なごみピットに興味深そうに見学していました。私は外国からのお土産がずらっと並んだ陳列ケースに、つい見入ってしまいました。国の要人が視察の際に持って来られるそうで、韓国や中国の見学者が多いことがわかりました。